

CAGLIERO¹¹

カリエロ11

サレジオ会宣教ニュース N.78 - 2015年6月

サレジオ会宣教部門によるサレジオ会共同体・サレジオ・ミッションの友人のための通信



友人の皆さん

毎年、新しい宣教師たちは、ローマのイエスの聖心大聖堂を訪れます。そこは、私たちの愛する父ドン・ボスコの血と汗によって建てられた聖心の家です。イエスの聖心にささげられたこの月、あらゆる大陸から、霊的に宣教の心でそこへ巡礼しましょう。サレジオ会の養成支部は皆、聖心にささげられています。イエスの聖心はまた、すべての宣教師の魂の内に君臨しなければなりません。どのサレジオ会員も、イエスの聖心の宣教の炎を奪われることがありませんように！ それは、すべてのサレジオ会管区の最も貴い遺産です！

イエスの聖心を観想し、イエスの聖心に祈



るとき、多くの人々がすべての人への宣教 missio ad gentes の呼びかけを体験しました。実際、イエスは言われます。「あなた方を殺す者がみな、自分は神に仕えているのだと思う時が来る。彼らがこのようなことをするのは、父をもわたしをも知らないからである。」(ヨハネ 16・2-3) そのため、イエスの聖心は協力者を求めています。イエスと御父とが「6つの」大陸のすべてで(もちろん、デジタル大陸を含めて!) 知られるよう、協力したいと願う人を。

勇気を出しましょう!

J. Basanes

宣教顧問
ギジェルモ・バサニェス神父

プロジェクト・ヨーロッパの10年

2005年以来ハンガリー管区で働いているサレジオ会宣教師の会合が、2015年4月29日と30日、ペリフェールドセントケレストで行われました。ハンガリーは、プロジェクト・ヨーロッパの宣教師を初めて迎えた管区です。10年を経た今、この会合は、体験を分かち合い、評価を行い、将来に目を向けるための良い機会になりました。

宣教師たちは分かち合いの中で、ハンガリーの会員たちの最初の受け入れ、霊的指導者、新入りの宣教師のために仲介役を果たす会員がいたこと、本格的に言葉を学ぶ機会が与えられたことなどすべてが管区への統合の助けになったと話しました。また、新宣教師が管区の生活と活動の一員であると感じられるように、ハンガリー人会員が多大な努力を注いでいることも語られました。

宣教師たちは自分たちの経験に照らし、将来ハンガリーで働く宣教師のプロフィールを描き出しました：国際的言語、できれば英語を習熟していること。ポスト・ノビスの後に派遣されること、なぜなら実地課程の期間は、土地の文化の中に入り、徐々に言語を習得する助けになるため。寒さに耐える体力、力強い霊的生活。また、管区の多文化の共同体が真に預言的な兄弟愛をあかすことができるように、宣教師たちがさまざまな国の出身者であることが大切だと認識されました。

最後に、宣教師は霊的生活を重視し、世俗的な生活スタイルに陥らないよう気をつけなければならないことが確認されました。世俗化したヨーロッパは、世俗化した宣教師には全く用がないからです！

現在ヨーロッパで、サレジオ会宣教師は、アルバニア、オーストリア、アゼルバイジャン、ベルギー、ブルガリア、フランス、ハンガリー、アイルランド、イタリア、リトアニア、オランダ、ウクライナ、英国で働いています。



2013年10月31日から11月3日にかけてヴァルドッコで開催された、ヨーロッパで働く58人の宣教師の会合



私

の宣教召命は、人生のさまざまな時に少しずつ形成され、養われました。私が1歳のとき家族がウガンダに移住し、異国の世界、異国の文化の中で育ったことは私の内に消えることのないしるしを刻み、そのことによって種が蒔かれました。ウガンダは私の一部になりました。

10年後、家族でインドに戻り、私はサレジオ会の学校で学ぶようになり、ドン・ボスコとサレジオ会に出会いました。私の宣教召命は修練期のときから育まれました。宣教グループによって、宣教師たちが頻繁に養成支部を訪れ、自分たちの体験、仕事、出会う挑戦について分かち合ってくれることを通して、私は絶えず宣教師たちとの接触を保つことができました。

決定的だったのは、2006年、当時の総長バスクアーレ・

チャーベス神父が私たち若いサレジオ会員に、宣教師になるよう呼びかけた時でした。インドにおけるサレジオ会の100周年に当たっての訪問の折です。私はサレジオ会召命の中の宣教召命を識別するため、霊的指導者に助けられながら、自分の国を離れad exterios生涯をささげてad vitam宣教師となるために願書を提出し、それからハンガリーに派遣されました。

ヨーロッパで働くアジア人宣教師として、新しい国と文化の中で、まず個人的な回心を経なければならぬことに私は気づきました。言葉を学び、食べ物や気候に慣れるのには苦労したものの、若いサレジオ会員として、文化の中には楽に入ることができました。しかしながら、外国人として、新しい人間関係を築き、自分とは違う文化を持つ人々の一員になり、若者に愛される人間になるのは大変でした。地元のハンガリー人サレジオ会員の多くがかなり高齢であったため、共同体生活に適応するのはなかなかの挑戦でした。また、新たな管区での自分の役割や責任を見いださなければなりません。あたかも召命の中の自分の召命を発見し直すかのようでした。

確かに、キリスト教徒がわずかな少数派であるインドは、宣教師をとっても必要としています。しかし、長年にわたる無神論の共産主義の影響を深く受け、現在は世俗主義の影響を受けているハンガリーも、社会のさまざまな領域で福音を告げ知らせる人々を切実に必要としています。今日、多くのハンガリー人は、特に子ども・若者は、何も信仰せず、あるいは信仰を棄てています。ここハンガリーでは、これが私たちの、すべての人への宣教missio ad gentesの仕事です。

私はサレジオ会員として、ドン・ボスコの典型的なアプローチを通して、若者たちが神の愛、父、兄弟、友の愛を体験できるように助けようと努力しています。慈愛、人を結ぶ絆、スポーツ、音楽、演劇、広報メディアなどのアプローチです。この国での宣教師としての生活は、喜びと満足を与えてくれる数多くの瞬間に満ちています。しかし、私の最大の喜びは、若者の心に触れるため、神様が私を通して働かれるのを体験することです。

親愛なる読者であるあなたをお願いします、私のために祈ってください。独りで働くことのできる宣教師などいないのですから。でも、もし神様があなたを呼んでいると感じたなら、私と一緒に働きましょう！

インド出身、ハンガリーの宣教師
クアドロス・リットン・エルヴァント神父



Siervo de Dios
P. José Vandor

サレジオの宣教の聖性のあかし

神の僕ヨセフ・ヴァンドール（1909-1979）、キューバのハンガリー人宣教師は、そのさまざまな勧めのなかで、次のように提案しています：「過去の失墜を心から消しなさい。人生は今日、始まる。あたかも人生の唯一の一日であるかのように今日を生きよ。朝に、徳を身につけるよう励みながら、自分の欠点を治めることを決意しよう。夕には、良く達成できたことを振り返ろう。」



サレジオ会の宣教の意向

オセアニアにおけるサレジオ会召命のために

オセアニアのサレジオ会員が、生活のあかし、提案する勇気、一人ひとりへの同伴、生活と祈りの一致を通して、召命の文化を築き上げることができますように。

オセアニア6か国の私たちの事業における召命の文化を、忍耐と情熱をもって築き上げるにはいくつかの挑戦があります。オーストラリアでは、世俗化した環境の挑戦があり、太平洋の島々では、召命の不安定な弱さが挑戦となっています。私たちは、サモアからの多くの召命の実りを、パプアニューギニアからの最初の司祭（2013年）、そしてソロモン諸島からの修道士（2010年）という賜物を神に感謝しつつ、オーストラリアの召命のため、また、ニュージーランドとフィジーから将来与えられる最初の召命のために祈ります。

